

於大のみち再整備計画策定業務仕様書

（業務目的）

第1条 「於大のみち」は、東浦町（以下、「本町」という。）における主要な地域資源であるが、整備から30年以上経過し、舗装や本町の歴史や於大の方を紹介する陶板等の老朽化が著しい状況である。

本業務は、「於大のみち」の再整備に向け、図書館や於大公園等を結ぶ歴史と自然が感じられる散策路や憩いの場の位置付けは継続しつつも、活動・交流の場としてにぎわい創出を図り、子どもから大人まで住民のシビックプライドの醸成につながる魅力ある散策路にするため、計画策定等を行うことを目的とする。

（実施体制）

第2条 本業務の実施にあたっては、受注者は本町の意図及び目的を十分理解した上で、経験豊かな技術者を定め、適切な人員を配置して最高技術を発揮するように努力するとともに、東浦町が定める担当職員と常に密接な連絡をとり業務遂行を図るものとする。

（管理技術者等）

第3条 受注者は、本業務における管理技術者、担当技術者及び照査技術者を定め、本町に届け出るものとする。配置予定技術者の内1名以上は、技術士登録の建設部門（都市及び地方計画）、RCCM（技術士と同様の部門に限る）のいずれかの資格を有するものを配置しなければならない。

また、業務の円滑な遂行を確保するため、本業務に従事する管理技術者・担当技術者は、愛知県内の本店又は支店の常駐者とし、代表者が発行する在籍証明書をもってこれらの身分・在籍を本町に証明すること。（※管理技術者、照査技術者及び担当技術者は、それぞれを兼ねることはできない。）

（品質管理）

第4条 受注者は、ISO9001に準拠した品質管理システムのもとに、業務を遂行しなければならない。また契約締結前に品質管理マネジメントシステムの認証を証明する書類の写しを提出し、本町の上承を得るものとする。

（行政情報流出防止計画）

第5条 本業務において取り扱う各種資料や各種データには、本町における多数の重要事項が含まれているため、受注者は、情報セキュリティの重要性を認識し、良識ある判断に基づき、資料の破損、紛失、盗難、外部への漏洩等の事故のないように慎重に取り扱い、管理運用を行うものとし、作業終了後、速やかにこれを返還するものとする。また、受注者は情報の保護及び品質管理の観点から、次の公的資格を企業として取得していなければならないものとする。

（1）ISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム）

（2）JISQ15001（プライバシーマーク）

（3）ISO9001（品質マネジメントシステム）

(業務内容)

第6条 業務内容は、次のとおりとする。

(1) 測量業務（令和7年度）

ア 基準点測量（3級基準点測量／4級基準点測量）

設計対象地区の現況を取得するために必要となる基準点を計測することを目的として、既知点に基づき基準点の位置をTS（トータルステーション）により観測し座標を確定する。

イ 路線測量

於大のみちの内、「生い立ち広場」、「再会広場」、「門前広場」の3広場を対象に、設計時に必要となる該当地全体の傾斜・凹凸等の地形把握を目的とした中心線及び縦・横断測量等を実施する。

なお、その他区間に対しては、河川台帳における縦横断図を活用して現況縦横断図とする。

ウ 現地測量

於大のみちの内、「生い立ち広場」、「再会広場」、「門前広場」の3広場を対象に、上記アにて取得した3級・4級基準点を図に展開し、現地における地形・地物・標高等を測定し、現況平面図（縮尺1：500）を作成する。

なお、その他区間に対しては、河川計画における現況平面図を活用して現況平面図とする。

(2) 設計業務（令和7年度）

ア 計画準備

円滑な作業遂行のため、業務内容を把握するとともに業務実施方針、作業工程、組織計画及び仕様の確認・検討の他、業務計画書等を立案する。

イ 於大のみち基本計画

於大のみちの一般部（堤防天端部両岸）及び「生い立ち広場」、「再会広場」、「門前広場」を対象に、再整備のための基本計画を行う。

(ア) 現況把握

上位関連計画等の関連資料を収集・整理するとともに、計画対象地及びその周辺の現地踏査により現況（既存樹木の状態含む。）を把握するとともに、収集・整理した既往資料に基づき、施設概要等の与条件と現地状況を照合・確認する。

(イ) 敷地分析

収集・整理した関連資料の他、現地把握結果及び既往資料に基づき、再整備に向けた現状の課題を抽出、整理する。

(ウ) 計画内容の検討及び設定

課題に対応し、再整備に向けた基本的な方針について検討・整理する。

施設の在り方の他、管理・運営における基本的な方針について、施設整備水準やサービス水準について検討し、基本方針を設定する。

(エ) 基本計画図の作成

上記にて整理・検討した結果に基づき基本計画平面図を作成する。

(オ) 概算工事費の算出

基本計画図を基に同種事業の実勢価格等を参考の概算事業費を算出す

る。

(カ) 基本計画説明書の作成

これまでの検討結果並びに各種資料をとりまとめた基本計画説明書を作成する。

ウ 歩行者ネットワーク検討

於大のみちの魅力向上及び本町におけるウォーカブルなまちづくりに寄与するため、於大のみちの他、町役場、図書館、於大公園、JR緒川駅等を結ぶ本町中心エリアを対象とした歩行者ネットワーク検討を行う。中心エリアに点在する各種地域資源を結びつつ、於大のみちへとつながる安全で快適な歩行者ルートの検討、ルート上での必要機能等の検討等を行う。

エ 関係団体等の意向調査

町内で活動を行っている於大のみち関係団体等へ意向調査を実施し、於大のみちの現状や再整備に向けての要望等を把握するとともに、具体的な意見の確認を行う。関係団体は、東浦町観光協会及びふるさとガイド協会等の団体を想定し、4回の実施とする。

オ イメージパースの作成

上記検討内容に基づいて設定した内容に基づいて、計画対象地（生い立ち広場、再会広場、門前広場、園路部等）のイメージパースの作成を行う。イメージパースのサイズ等は、A3サイズを各1枚とする。

カ 関係機関協議

業務の中で必要となる関係機関との協議及び資料作成を行う。

(3) 設計業務（令和8年度）

ア 於大のみち実施設計

於大のみちの一般部（堤防天端部両岸）及び「生い立ち広場」、「再会広場」、「門前広場」を対象に、基本計画の内容を元に再整備のための実施設計を行う。

(ア) 実施設計の検討

基本計画で定めた内容に基づき、施工位置・形状寸法・安全性・機能性・施工性・維持管理性・既存施設の保全等に配慮しながら、設計検討と条件設定等を行う。

なお、設計を進める中で、各種追加調査、地盤改良、重要構造物等の設計が必要となった場合、発注者と協議の上、別途対応するものとする。

(イ) 実施設計図作成

上記（ア）の検討結果に基づき、於大のみち再整備工事に必要な実施設計図（各種平面図・縦断図・横断図・構造図等）を作成する。

(ウ) 数量計算等

図面及び工事仕様書に基づく施工数量や材料の計算を行うものとする。また、図面を作成する上で必要に応じて応力や容量の計算行い、設計の適正を確認するものとする。

(エ) 概算工事費の算出

実施設計図書に基づき、工種別に概略の工事費を算出し、工種別内訳書に取りまとめるものとする。

(オ) 実施設計説明書の作成

設計条件、各施設の使用材料や施設構造、規格値及び基準の出典、設計検討の経緯、その他設計に必要な事項について取りまとめる。また、関係機関との対応方針及び必要な協議資料等、申し送り事項等について整理・検討する。

(カ) 照査

設計方法や手法の妥当性の照査、成果品の内容の適正照査を行う。

イ 河川占用図書作成

施設の整備に関する検討及び決定に当たっては、河川管理者との協議・調整が不可欠であるため、於大のみち再整備の実現化に向けて、河川占用協議資料を作成し、必要に応じ河川管理者との協議に同席・説明を行う。

ウ 関係機関協議

業務の中で必要となる関係機関との協議及び資料作成を行う。

(打合せ協議)

第7条 業務の適正な遂行を図るため、また手戻りの生じないよう受注者は、本町の担当者と密接な連絡をとり、その都度打合せ記録簿を作成し、相互に確認する。また、業務遂行上必要となる関係機関に対しては、これに伴う各種資料の作成や協議等も行う。

なお、打合せは、業務着手時、中間打合せ、成果品納入時を予定するが、必要に応じ適宜打合せを行うものとする。

(成果品)

第8条 本業務における成果品は次のとおりとする。

(1) 業務報告書	1 式
(2) 実施設計図書（図面、数量計算書）	1 式
(3) イメージパース（3 広場）	1 式
(4) 打合せ記録簿	1 式
(5) (1) から (4) の電子データ	1 式
(6) その他監督員が必要と認めた資料	1 式

(支払い)

第9条 第6条の各業務については、年度ごとに完了報告及び成果品の納入を行い発注者の検査を受けるものとする。また、検査に合格したときは、業務委託料の支払いを請求することができる。

(その他)

第10条 発注者は、進捗状況把握及び関係機関との協議のため、必要に応じて成果品の一部を提出させることができる。

2 本業務の実施にあたり、疑義が生じた場合は、発注者と協議を行うものとする。